

平成 16 年 3 月期

## 第 1 四半期業績の概況（連結）

平成 15 年 8 月 12 日

上場会社名 東洋製罐株式会社  
コード番号 5901

上場取引所 東 大  
本社所在都道府県 東京都

(URL <http://www.toyo-seikan.co.jp>)

代表者 役職名 取締役社長 氏名 三木 啓 史

問合せ先責任者 役職名 総務部長 氏名 山 縣 宗 夫

TEL(03)3508 - 2113

第 1 四半期決算取締役会開催日 平成 15 年 8 月 12 日

米国会計基準採用の有無 無

## 1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 :

・連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結 (新規) - 社 (除外) - 社 持分法 (新規) - 社 (除外) - 社

四半期決算の開示は当第 1 四半期からの開示となるため、15 年 3 月期第 1 四半期の実績、対前年第 1 四半期増減率については記載を省略している。

## 2. 平成 16 年 3 月期第 1 四半期の業績概況（連結）(平成 15 年 4 月 1 日～平成 15 年 6 月 30 日)

(1)経営成績（連結）の進捗状況 (注)本表及び添付資料は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16 年 3 月期第 1 四半期	181,756	-	9,815	-	10,167	-
15 年 3 月期第 1 四半期	-	-	-	-	-	-
(参考)15 年 3 月期	696,361	0.0	21,279	1.1	19,016	0.5

	第 1 四半期(当期)純利益		1 株当たり 第 1 四半期(当期)純利益		潜在株式調整後 1 株当たり第 1 四半期(当期)純利益	
	百万円	%	円	銭	円	銭
16 年 3 月期第 1 四半期	5,631	-	26.38	-	-	-
15 年 3 月期第 1 四半期	-	-	-	-	-	-
(参考)15 年 3 月期	8,267	16.9	36.89	-	-	-

## (2)財政状態（連結）の変動状況

	総資産		株主資本		株主資本比率		1 株当たり株主資本	
	百万円		百万円		%	円	銭	
16 年 3 月期第 1 四半期	890,444		561,331		63.0	2,629.87		
15 年 3 月期第 1 四半期	-		-		-	-		
(参考)15 年 3 月期	882,104		552,866		62.7	2,588.45		

## 3. 平成 16 年 3 月期第 1 四半期のセグメント別経営成績（連結）の進捗状況

	包装容器 関連事業	鋼板関連 事業	その他 事業	計
外部顧客に対する売上高	159,402	13,838	8,515	181,756
セグメント間の内部売上高又は振替高	112	13,703	1,432	15,248
第 1 四半期営業利益	8,534	577	491	9,602

	消去又は 全社	連 結
外部顧客に対する売上高	-	181,756
セグメント間の内部売上高又は振替高	15,248	-
第 1 四半期営業利益	212	9,815

4. 平成16年3月期の連結業績予想（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
中間期	百万円 350,000	百万円 16,000	百万円 9,500	円 銭 44.51

(注)上記の予想につきましては、本資料の発表日現在のデータにより経営者が現状で判断する一定の前提及び仮定に基づいております。実際の業績は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

<参考1.> 平成16年3月期第1四半期の業績概況（個別）（平成15年4月1日～平成15年6月30日）

(1)経営成績の進捗状況 (注)本表及び添付資料は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16年3月期第1四半期	102,716	-	6,358	-	7,054	-
15年3月期第1四半期	-	-	-	-	-	-
(参考)15年3月期	395,569	4.2	7,953	30.9	8,487	25.6

	第1四半期(当期)純利益		1株当たり 第1四半期(当期)純利益		潜在株式調整後 1株当たり第1四半期(当期)純利益	
	百万円	%	円 銭		円 銭	
16年3月期第1四半期	5,031	-	23.55		-	
15年3月期第1四半期	-	-	-		-	
(参考)15年3月期	3,871	39.4	17.62		-	

(2)財政状態の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
16年3月期第1四半期	521,394	392,022	75.2	1,834.95
15年3月期第1四半期	-	-	-	-
(参考)15年3月期	514,415	384,267	74.7	1,798.17

<参考2.> 平成16年3月期の個別業績予想（平成15年4月1日～平成16年3月31日）

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり予想当期純利益
中間期	百万円 195,000	百万円 10,000	百万円 7,000	円 銭 32.76

(注)上記の予想につきましては、本資料の発表日現在のデータにより経営者が現状で判断する一定の前提及び仮定に基づいております。実際の業績は今後さまざまな要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

## 5 . 平成16年3月期 第1四半期連結業績の概況

当第1四半期におきまして、当社グループは業績の回復を図るべく、生産・販売・研究開発の各分野で業務改革に取り組み、全力を挙げて努力しました結果、売上高は1,817億56百万円、経常利益は101億67百万円、当第1四半期の純利益は56億31百万円となりました。各セグメント別の営業の状況は以下のとおりです。

### 【包装容器関連事業】

売上高は1,594億2百万円となり、営業利益は85億34百万円となりました。

#### 缶詰用空缶・その他金属製品の製造販売

当第1四半期における飲料市場は、気温は全国的には平年を上回ったものの、天候不順の影響や個人消費の低迷などにより、総需要は前年同期を下回りました。また、成熟した市場の中で、缶からペットボトルへの転換に加え、ペットボトルの容量の多様化が進むなど、容器の変化がさらに進展いたしました。

このような状況の中で、飲料用空缶では、チューハイ向けは売上が増加しましたが、ビール向けからの需要の移行と拡販努力により近年売上が増加していた発泡酒向けにおいては、酒税法改正による税率引き上げの影響を受けたため売上が減少しました。また、清涼飲料向けは引き続き缶からペットボトルへの転換が進んだことから売上が減少し、飲料用空缶全体の売上高は前年同期を下回る結果となりました。中でもリシールできる容器が好まれるお茶類・炭酸飲料・健康飲料向けは大きく売上が減少いたしました。なお、当社は環境保全性と経済性の両立を実現した主力製品「タルク」の販売に注力し、その販売構成比率を高めております。

食品用空缶では、健康食品として注目されたさば・いわしなどの水産食品向けで売上の増加はありましたものの、食用油・調理食品・菓子向けがプラスチック製品への移行によりそれぞれ減少し、また粉ミルク向けは前年に比べて需要が減少したことが影響して、前年同期を下回る売上高となりました。

生活用品用空缶では、殺虫剤向けは前年同期を下回りましたが、乾電池向けや制汗消臭剤・頭髮用品・塗料向けのエアゾール缶が伸長し、売上高は前年同期を上回りました。

以上のほか、18リットル缶の売上高は前年同期を上回りました。

#### プラスチック製品の製造販売

飲料用ペットボトルの市場では、500mlを超える大容量ボトルについては、アミノ酸ブームによる健康飲料向けとミネラルウォーター向けを主体として家庭内消費の拡大により需要は伸長いたしました。また500ml以下の小容量ボトルも、リシールできる利便性が消費者に支持されているほか、大容量ボトル同様アミノ酸ブームによる健康飲料向けやお茶類・ミネラルウォーター向けを主体に需要が伸長いたしました。中でも350ml以下のボトルの需要は、自動販売機へのさらなる投入と新製品による市場拡大で前年同期を大きく上回りました。しかしながら、飲料用ペットボトル全体の売上高は、軽量化の推進や350ml以下のボトルの増加と競争激化の影響を受け販売価格が低下したため、前年同期を下回りました。

プラスチックボトルでは、たれ類・焼酎向けで伸長がありましたものの、食用油・マヨネーズ向けの減少に加え、薬品・洗剤向けやシャンプー・リンスなどの頭髮用品向けの低迷もあり、売上高は前年同期を下回りました。

プラスチックフィルムでは、菓子・米飯向けのカップ製品やカレー向けのレトルト食品包材がそれぞれ減少し、また、洗濯用洗剤向けの詰替用フィルム包材においても、濃縮タイプへの移行が進んだことなどが影響し、前年同期を下回る売上高となりました。

プラスチックキャップでは、引き続きお茶類向けが増加するなど、売上高は前年同期を上回りました。

## ガラス製品の製造販売

びん製品は、引き続き需要の減少に歯止めがかからない市場環境の中で、焼酎・清酒向けで業界水準を上回る伸長がありましたが、清涼飲料・食料・調味料向けで減少し、売上高は前年同期を下回りました。

ハウスイエア製品は、消費が低迷する中で、競争激化による販売価格の低下などの影響により、売上高は前年同期を下回りました。

## 紙製品の製造販売

印刷紙器製品は、レトルト製品などの加工食品向けや清酒向けの一般製品および清涼飲料向けのジャケットパック製品が減少しましたが、ゲームソフト向けや清酒などギフト向けのEフルーツ等美粧製品が伸長したため、売上高は前年同期を上回りました。

段ボール製品は、発泡酒・缶チューハイ・清涼飲料向けのラップ・ア라운드製品が順調に推移し、一般製品などの伸長とあわせて、売上高は前年同期を上回りました。

紙コップ製品は、冷菓コップが伸長しましたが、飲料コップやヨーグルト向けなどの一般容器が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

## 【鋼板関連事業】

売上高は138億38百万円となり、営業利益は5億77百万円となりました。

シルバートップ(電気亜鉛メッキ鋼板)は、事務用機器、電気機器向けは好調でしたが、ベアリング向けは低迷し、自動車向けも大きく減少したため、全体として売上高は前年同期を下回りました。ニッケルトップ(ニッケルメッキ鋼板)は、自動車向けは減少しましたが、電池、電子機器向けが大幅に増加し、全体として売上高は前年同期をやや上回りました。ピントップ(高級化粧鋼板)は、建築材料向けのユニットバス用が環境対応型高級化粧鋼板の進展により引き続き大きく増加しましたが、建築材料向けのプレハブ、カーテンレール用及び電気機器向けの冷蔵庫用が低迷し、全体として売上高は前年同期をやや下回りました。薄板類は、電池向けは落ち込みましたが、電子機器向けが堅調に推移し梱包用帯鋼も好調な鉄鋼輸出に支えられ増加した結果、全体として売上高は前年同期を上回りました。その他の品種は、建材は増加しましたが住機・住設が低調に推移したため、全体として売上高は前年同期をやや下回りました。

## 【その他事業】

釉薬・肥料・顔料・ゲルコート及び硬質合金・電子機器部品・機械器具などの製造販売、石油製品などの販売、損害保険代理業及び不動産管理につきましては、売上高は85億15百万円となり、営業利益は4億91百万円となりました。

## 6.平成16年3月期中間期の業績予想

平成16年3月期中間期の業績予想(連結および個別)につきまして、当第1四半期の実績を踏まえ、平成15年5月23日に公表した予想を修正しております。

売上高につきましては、夏場の天候不順の影響などにより、厳しい状況となることが予想されるため、下方修正いたします。

利益につきましては、諸経費の削減に鋭意努力していることに加え、税制改正による減税を最大限に活用することに伴う税金費用の減少などの影響により、上方修正いたします。

## 7. 連結財務諸表等

### (1) 第1四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

区 分	当第1四半期 平成15年6月30日	前連結会計年度 平成15年3月31日
(資産の部)		
流動資産	458,000	452,159
現金及び預金	141,966	160,428
受取手形及び売掛金	227,058	198,077
有価証券	62	62
棚卸資産	75,630	79,496
繰延税金資産	8,414	8,367
その他	7,866	8,110
貸倒引当金	2,997	2,383
固定資産	432,444	429,944
有形固定資産	308,468	310,707
建物及び構築物	111,542	112,757
機械装置及び運搬具	120,162	124,336
土地	58,925	56,192
その他	17,838	17,421
無形固定資産	2,158	2,157
投資その他の資産	121,817	117,080
投資有価証券	76,228	69,366
繰延税金資産	37,100	40,105
その他	10,822	9,986
貸倒引当金	2,333	2,378
資産合計	890,444	882,104

区 分	当第1四半期 平成15年6月30日	前連結会計年度 平成15年3月31日
( 負債の部 )		
流動負債	156,317	157,856
支払手形及び買掛金	77,612	71,576
短期借入金	25,135	23,472
未払法人税等	3,985	7,125
その他	49,583	55,681
固定負債	131,329	130,313
社 債	8,000	8,000
長期借入金	6,946	7,069
繰延税金負債	1,776	1,767
退職給付引当金	105,630	104,832
特別修繕引当金	5,698	5,475
連結調整勘定	1,090	1,188
その他	2,187	1,979
負債合計	287,647	288,169
( 少数株主持分 )		
少数株主持分	41,465	41,067
( 資本の部 )		
資 本 金	11,094	11,094
利益剰余金	532,640	528,167
其他有価証券評価差額金	22,168	18,179
為替換算調整勘定	54	42
自己株式	4,625	4,617
資本合計	561,331	552,866
負債、少数株主持分 及び資本合計	890,444	882,104

(注) 四半期決算の開示は当第1四半期からの開示となるため、前第1四半期末の実績については記載を省略しております。

## (2) 第1四半期連結損益計算書

(単位 百万円)

区 分	当第1四半期 自平成15年4月1日 至平成15年6月30日	前連結会計年度 自平成14年4月1日 至平成15年3月31日
売上高	181,756	696,361
売上原価	150,528	593,752
売上総利益	31,228	102,609
販売費及び一般管理費	21,412	81,330
営業利益	9,815	21,279
営業外収益	1,664	8,150
受取利息	73	362
受取配当金	493	1,113
賃貸料	404	1,659
連結調整勘定償却額	101	975
その他	591	4,040
営業外費用	1,312	10,413
支払利息	203	1,368
固定資産除却損	175	2,005
投資有価証券評価損	204	1,787
その他	729	5,251
経常利益	10,167	19,016
特別利益	-	10,622
退職給付引当金取崩益	-	10,622
特別損失	-	5,731
固定資産臨時償却費	-	4,150
事業再編費用	-	1,580
税金等調整前第1四半期純利益	10,167	* 23,908
法人税、住民税及び事業税	4,173	12,749
法人税等調整額	-	1,896
少数株主利益	362	994
第1四半期純利益	5,631	* 8,267

- (注) 1. \*はそれぞれ税金等調整前当期純利益・当期純利益となります。
2. 四半期決算の開示は当第1四半期からの開示となるため、前第1四半期の実績については記載を省略しております。
3. 当第1四半期における税金費用については、簡便法により計算しているため、「法人税、住民税及び事業税」は、法人税等調整額を含めております。

## (3) 第1四半期連結剰余金計算書

(単位 百万円)

区 分	当第1四半期 自平成15年4月1日 至平成15年6月30日	前連結会計年度 自平成14年4月1日 至平成15年3月31日
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	528,167	521,428
利益剰余金増加高	5,631	8,746
第1四半期純利益	5,631	* 8,267
連結子会社と非連結子会社の 合併に伴う剰余金増加高	-	479
利益剰余金減少高	1,158	2,007
配 当 金	799	1,607
役 員 賞 与	359	400
利益剰余金第1四半期末残高	532,640	* 528,167

(注) 1. \*はそれぞれ当期純利益・利益剰余金期末残高となります。

2. 四半期決算の開示は当第1四半期からの開示となるため、前第1四半期の実績については記載を省略しております。